

手術のタイミングを逸した盲腸癌

与論徳州会病院 時田裕介/高杉香志也/久志安範

<2009/7/9 来院>

【主訴】 体重減少

【現病歴】 脳出血による左片麻痺があり、認知症のある 72 歳女性。風花苑入所中。

2009年1月から6月の間に3kg程度の体重減少があったため悪性腫瘍を含めた原因精査目的で当院紹介入院となった。本人に特に症状は見られず、食欲にも特に問題なかった。

【入院精査結果】

便潜血：陰性、胸腹部CT、GIFに異常所見認められず、CFでは嘔吐反射のため横行結腸までしか検索できなかつた。観察範囲内では悪性腫瘍所見なし。CEA：114.9ng/mlと高値であったが、明らかな悪性病変は指摘できなかつた。入院中は食欲良好、全身状態安定していたため、風花苑へ転院となる。

<2009/12/28 来院>

【主訴】 嘔吐

【現病歴】 (P t 本人からの状況確認があいまいであり、紹介状から引用)

12/25 から腹部全体の圧痛と嘔吐が出現。一時期軽快するも、12/28 朝から再び食欲低下し、嘔吐が出現。腹部圧痛も、増悪傾向にある。発熱、下痢などの症状はないが、炎症反応がやや増悪あり、当院に紹介来院となる。

【身体所見】

意識レベル JCS1 (認知症あり) 36.5°C 148/90 112 SpO2 94% 呼吸数 18

HEENT：問題なし 呼吸音：クリアー 心音：リズム整 雑音なし

腹部 自発痛なし 腹部全体に圧痛あり 特に右下腹部が一番痛い

腸音 やや低下 右下腹部に拳大の腫瘍を触知

【採血結果】

WBC/Hb/Hct/Plt 9800/14.1/40.5/31.0 NEUT 82.4%

Na/K/Cl 135/4.5/99 GOT/GPT/LDH 14/5/292 ALP 316 T-Bil 0.5

BUN/Cre 10.5/0.4 CRP 2.6 CEA 212.8ng/ml CA19-9 0.8U/ml 未満

【腹部エコー】

S状結腸：不整な腫瘍様エコー、口側の結腸拡張

右腎：水腎あり 胆嚢：結石多数あり、壁やや肥厚 胆管：拡張なし

【腹部CT】

右下腹部に10cm台の辺縁不整の腫瘍あり、小腸拡張あり 膀胱と直腸の間に腫瘍あり

【直腸診】

便潜血 ++ 便色：緑黒色便 触知可能な範囲に腫瘍なし 便塊貯留あり

【CF】 (12/29 実施)

横行結腸まで挿入したが狭窄部位があり、上行結腸、回盲部付近の腫瘍性病変を確認できず。

【経過】

1/8 手術実施 以後の経過・考察については、スライドにて発表させていただきます。